慢性痛
急性痛

藤井洋泉先生の今月のカルテ　vol.79

ペインクリニックの現場から

梶木病院麻酔科・ペインクリニック科の香曽我部義則先生と藤井洋泉先生が、痛みの治療や緩和についての情報を届けてくれる「ペインクリニックの現場から」。前回に続き、藤井先生が脊髄刺激療法で使用する機器や埋め込み術終了までの話をしてくれます。

■プロフィル　ふじい・ひろみ　平成2年岡山大学医学部卒業後、同大学医学部麻酔科蘇生科入局、岡山労災病院麻酔科、岡山大学医学部附属病院麻酔科蘇生科などを経て平成19年から現職。日本麻酔学会指導医。日本ペインクリニック学会認定医。現在、国際疼痛学会、日本麻酔学会、日本ペインクリニック学会、日本慢性疼痛学会などに所属

脊髄刺激療法では、まず、効果を見るために試験刺激を行います。期間は施設により異なりますが、約1週間が目安です。

レントゲン透視下に、背中から硬膜外ブロック用の針を硬膜外腔（くう）まで進め、電極リードを針の中を通して、目標の椎体（ついたい）まで進めます。電極を留置する部位は痛みの場所により異なり、電極位置が1椎体違うと全く別の場所に刺激がいきます。そのため、痛みの部位をカバーするようなトントンという刺激がどこに伝わっているか確認しながら電極位置を微調整します。

電極を最適の位置に留置したら、電極リードを皮膚に縫合固定します。延長コード、体外式刺激装置を接続して脊髄刺激を開始します。試験刺激期間は図のような状態になります。入浴はできませんが、歩行、食事、睡眠などは普段通り可能です。また、この期間に刺激装置の使い方に慣れることも重要です。

試験刺激期間の様子

試験刺激で効果があれば、刺激装置埋め込み術を行います。試験刺激と同様にブロック針の中を通して、電極リードを痛みの部位を刺激がカバーする位置に留置します。

次に刺激装置を皮下に埋め込みます。埋め込み部位は、鎖骨の下か腹側季肋（きろく）部（腹部の正中より外側で、肋骨の下部）となります。腹部に埋め込む場合は、ズボンなどを履いたときにベルトの下にならないようにします。刺激装置の大きさはペースメーカー程度ですが、最近さらに小型化されています。

皮膚切開は刺激装置埋め込み部に約6㎝、背中の電極リード固定部位に約5㎝。電極リードは背中から腹部まで皮下を通して刺激装置と接続します。皮膚を縫合して手術終了です。局所麻酔のみで手術可能ですが、刺激装置埋め込み時には、鎮痛剤を注射する場合もあります。入院期間は約2週間。詳しくは各施設にお問い合わせください。

脊髄刺激療法の機器は日々改良され、今年から2本の電極で16カ所に刺激を与えることが可能になりました。さまざまな刺激が設定でき、今までは無理だった広い範囲の痛みに対応しています。

この欄のお答えは、梶木病院（北区西花尻）の藤井先生です。☎086（293）3355㈹

刺激装置を皮下に埋め込み除痛する「脊髄刺激療法」
小型化されるなど改良され、2本の電極で16カ所に刺激が可能